

林業は、森林資源の平準化を念頭に、持続的な循環利用を促進し、森林環境の保全や林業専用道などの路網整備による未整備森林の適切な更新を図るとともに、本町の豊かな森林を未来へ引き継いでいくため、人材育成や環境教育にも取り組めます。

漁業は、主要魚種の記録的な漁獲の不振が続くなど、大変厳しい環境にある中、漁業経営の安定と水産資源の安定的な確保が喫緊の課題となっており、これまでの「獲る漁業」や「つくり育てる漁業」に加え、天然資源に頼らない「新たな増養殖事業」の必要性が高まっています。増養殖事業にあつては、漁業者自らの取り組み、漁業者が民間企業の力を借りての取り組み、民間企業による取り組み、さらには前浜だけではなく陸上での展開などが考えられることから、可能性を見極めながら新たな取り組みに対する支援に努めます。

また、町としても転換期を迎えている漁業振興施策の推進にあたり、まずは白糠海域の現状を把握する必要が、と考え、現在の前浜の漁場や藻場の環境、これまで道営事業により設置した魚礁や産



昨年のシシャモ漁は46トンと、記録的な不漁でした。

卵礁などの状態について、映像による可視化事業を実施し、白糠漁業協同組合と連携を図りながら、将来に向けた漁業の在り方を検討します。

商工業の振興については、新型コロナウイルス感染症の影響により甚大な経済的被害を受けている現下の状況を踏まえ、白糠町商工会との連携の下、適宜効果的な経済対策を展開することにより、事業者の活力の向上を図り、地域経済の立て直しに努めます。

また、建設から33年を経過した白糠振興センターは、老朽化への対応に加えて、利用需要を踏まえ

た機能向上が必要であることから、時代に即した利用者に優しい施設となるよう改修を進めます。

併せて、まちの賑わい・活力の創出についても並行して取り組んでいく必要があることから、地域おこし協力隊員を活用しながら、食材をはじめとする本町の豊かな地域資源の情報を発信し、交流人口や特産品販路の拡大など、まちの活性化に向けた取り組みを進めます。

しらぬか物産センター・恋問館は、改築に向けて町や白糠町振興公社の関わり方を含め、建物の規模や資金調達など、さまざまな角度から具体的な検討を行うとともに、移転先の用地買収に向けた協議を進めます。

魅力発信については、子育て支援・教育などの施策、地域資源をはじめとするまちの魅力をさまざまなメディアを通して効果的に発信し、交流人口や関係人口の創出・拡大を図ります。

ふるさと納税については、物産・産業振興、地域経済活性化、移住・定住を推進する観点から、さらなる本町のPRに努めるとともに、食と食材などを通して、事業者・

生産者の方々と都市部との新たな関係性を創出し、将来に向けて持続していくための取り組みを推進します。

再生可能エネルギーの取り組みについては、地熱資源の試験井掘削が進められていることから、調査が円滑に進捗するように協力を行います。

掘削技術専門学校は、本町における地域活性化はもとより、我が国における将来の地熱開発にも大きく寄与することから、国、北海道など関係機関と連携の上、必要な支援に努めます。

本町泊別地区の道立広域公園構想については、現在、北海道において、民間の資金と能力の活用による効率的かつ効果的な整備手法の検討と併せ、公園の整備計画に必要な基本条件の整理が行われていることから、より一層関係機関と連携を図りながら、早期の整備実現に向けた取り組みを進めます。

- ①道営草地整備事業の推進
- ②畜産クラスター事業の推進
- ③家畜防疫対策事業への支援
- ④担い手対策、新規就農者等支援事業の推進